

第1群（活動報告）

自死対策推進センターにおけるリスクアセスメントツールを活用した相談支援

○ 精神保健福祉センター（自死対策推進センター） 相談診療班 技師 加塩涼子
松田祐子, 石濱かおり, 岩崎みゆき, 本田由美子, 水本有紀, 小原聡子

キーワード: 自死対策 リスクアセスメント 緊急介入

I はじめに

宮城県の自殺者数については平成20年以降減少傾向にあったが、近年その減少率は緩やかになってきており、平成28年には震災関連自殺者数が増加するなど、未だ震災の影響も懸念される状況が続いている。県では平成27年6月、精神保健福祉センター内に「自死対策推進センター」を設置し自死対策の充実を図ってきたが、特に相談業務においては、自殺企図者や未遂者等からの緊急性の高い相談も徐々に増加しており、限られた時間の中で適切なアセスメントを行い、支援・介入の判断を迅速に行うことが重要となってきた。

II 方法

相談場面において職員が共通の基準に基づいてリスクアセスメントを行えるよう、アセスメントツールを作成し、支援・介入の判断に活用した。ツール作成にあたっては、桑原寛らによる『自殺に傾いた人を支えるために－相談担当者のための指針－』¹⁾において示された評価基準とその対応例を参考とし、自死リスク度の判定基準となる「自死リスクアセスメントシート」と、緊急時の対応指針となる「緊急介入フローチャート」を作成した。また、紹介する支援事例については、個人が特定されることのないよう部分的に改変を加えている。

III 活動内容

電話、来所による自死予防専門相談において、「自死リスクアセスメントシート」「緊急介入フローチャート」の2種のアセスメントツールを用い、相談者の自死リスク度の高さを判定するとともに、その判定結果を相談者への具体的支援の検討に活用した。

表1 自死予防専門相談実績（相談件数）

	専用電話相談 (うち自死関連相談)	面接相談(※)
平成27年度 (6月～)	延95件 (延78件)	実3件 延4件
平成28年度	延172件 (延108件)	実7件 延12件
平成29年度 (～12月)	延197件 (延105件)	実4件 延5件

※面接相談件数は精神保健福祉センターへの申込も含む

表2 自死関連電話相談の内容内訳(※対象者本人から受けた電話のみ)

	希死念慮	自殺企図	未遂者
平成27年度(6月～)	55件(91.7%)	3件(5.0%)	2件(3.3%)
平成28年度	79件(89.8%)	5件(5.7%)	4件(4.5%)
平成29年度(～12月)	59件(72.8%)	13件(16.0%)	9件(11.1%)

IV 考察

リスクアセスメントツールを活用することにより、職員が統一された基準に基づいて安定した判断、対応をとることができ、緊急時においても主観的な感情に左右されず、客観的な情報を基にして対応を検討することができた。また、共通の様式を用いることにより、事例を個人に抱え込むのではなく、チームとして共有した上で、十分に対応を検討し、その成果として積極的に他機関に繋いでいくことができた。

V おわりに

緊急度の高い相談を受けるに当たっては、組織としての統一した判断基準や対応指針のあることが、相談対応する職員の安心感や、相談者に対して安定した支援を行うことに繋がっている。今後は他機関連携においても、事例の共有のためにアセスメント結果の活用方法を検討していきたい。

VI 引用文献

- 1) 桑原 寛ほか：平成20年度厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「自殺に傾いた人を支えるために－相談担当者のための指針－」報告書（平成21年1月作成）